

「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」(第12回)

令和5年7月30日に、「常呂川下流地区水害タイムライン検討会(第12回)」を現地・オンライン併用にて開催しました。タイムライン(事前防災行動計画)とは、災害が発生する前に地域住民が安全かつ円滑な避難を行うために、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有したうえで、防災行動の項目やタイミングを検討・整理した計画です。

本検討会では、令和元年に作成した「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」を用いて、防災行動の検証訓練を実施しました。

- 開催日時 令和5年7月30日(日) 9:00 ~ 16:30
- 実施場所 Web開催 (補助会場:常呂町公民館)および常呂自治区末広・南町地区
- 参加機関 北見市、網走開発建設部、網走地方気象台、北海道オホーツク総合振興局、陸上自衛隊第6即応機動連隊、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会、常呂町農業協同組合、常呂漁業協同組合、北海道電力株式会社、東日本電信電話株式会社、町内会(末広、南町、開進町、中央町) 計 13機関 74名(避難訓練に参加の住民・施設従業員を含まず)

検証訓練の概要

今回の訓練では、北見市常呂自治区における水害発生を想定したシナリオを用いて、「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」のタイムラインステージ3に移行する状況(常呂川上川沿水位観測所で水防団待機水位到達)から開始しました。訓練用Webサイトにリアルタイムで気象情報、雨量、水位情報等を配信し、各機関がその状況を確認したうえで防災対応や住民避難に関する防災行動の手順を確認したほか、他機関との情報伝達のタイミングや手順、伝達内容を確認しました。さらに、Web会議ツールを活用し、タイムラインステージ移行や避難情報発令等の判断などの関係機関の協議を実施しました。また、常呂自治区内の末広・南町地区で避難情報と連動した住民等の避難訓練を実施し、要配慮者利用施設等においても水害時の対応手順等の確認を行いました。

なお、今年度は例年の訓練シナリオに変更を加えるとともに状況付与を増やすことで、これまでより訓練難度を上げました。また、これまでの訓練で検証できていなかった破堤後の防災行動の内容や手順についても確認を行いました。



訓練の流れ (イメージ)

北見市常呂総合支所の訓練状況

北見市常呂総合支所では、支所庁舎内に自治区災害対策本部を設置し、状況付与を踏まえて、避難指示発令の判断や伝達等を行いました。

自治区災害対策本部では、訓練用Web会議とは別回線で北見市本庁の災害対策本部とのWeb会議を常時接続して適宜、本庁との情報共有・協議を行いました。



常呂総合支所 (自治区災害対策本部)



事務局によるTLステージ判断協議

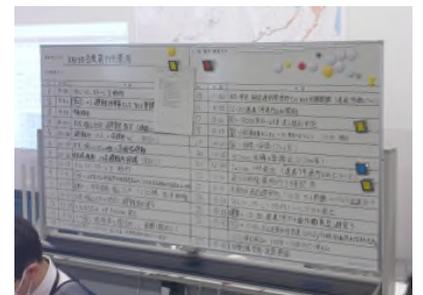
北見市本庁の訓練状況

北見市本庁では、本庁庁舎内に災害対策本部を設置し、市長(役)に対する資料作成と報告、北海道防災情報システム(訓練モード)への入力、市民広報資料の作成等を実施しました。また、網走開発建設部および網走地方気象台からは北見市本庁にリエゾンを派遣し、情報提供・協議を行いました。

訓練評価役の職員を配置し、各職員の対応状況について確認しました。



北見市本庁 (災害対策本部)



北見市本庁の対応記録

末広・南町地区の住民避難訓練状況

末広・南町地区ではコミュニティタイムラインの策定に向け、避難時の行動内容や課題を確認するために避難訓練を実施しました。末広・南町地区の避難場所である常呂中学校では、訓練前日に感染症拡大予防を考慮した避難所設営を実施しました。当日は、避難者の受付や避難者名簿の整理などの対応を行いました。



避難所入口での受付



避難者名簿への記入



段ボールベッド組み立て体験

要配慮者・要配慮者利用施設の避難訓練状況

常呂自治区市街地の浸水域内の要配慮者利用施設と末広地区では、車椅子利用者が福祉避難所となる特別養護老人ホーム「ところ」への避難訓練を実施しました。



要配慮者宅や要配慮者利用施設から福祉避難所への避難訓練

講評

訓練終了後には、本検討会アドバイザーである日本赤十字北海道看護大学災害教育対策センター長の根本教授から「訓練に参加いただいた皆様に感謝したい。多くの住民の方々にも中学校へ避難していただけたことは本当に素晴らしいと思う。本日の訓練を通じて「実際にやること」の大切さを私自身が体で感じたところである。タイムラインという計画を実際に時間経過と状況変化の中で動かすことで見えてくるものがあつたはずである。このことを踏まえて、今回の訓練で感じたことや書き漏れている行動内容を整理し、タイムラインをブラッシュアップしていただきたい。」と講評をいただきました。さらに、災害時のトイレ問題や避難所における情報伝達等に関して助言をいただきました。



根本アドバイザー講評

訓練の振り返り意見交換

講評後に訓練全体を通した振り返りの意見交換を行いました。この中で、北見市常呂総合支所からは、「事務局会議の流れに改善が必要と感じた。また、破堤後の対応確認は初めて実施したこともあり、内部でも対応の見直しや協議が必要な箇所が見えてきた。」とのご意見がありました。

北見市本庁からは、「北見市本庁と常呂総合支所との情報共有や連絡に課題が見えてきた。本庁側で必要と考える情報と総合支所側で伝えたい情報にずれ違いが生じて情報の同期が取れていなかった箇所があつた。また、自衛隊の災害派遣要請と緊急安全確保発令のタイミングの難しさがあつた。ここが非常に苦労した点であつたが、もう少し条件等を整理して円滑に行えるようにしたいと考えている。今回の訓練シナリオは事態の進行が非常に速いものであつたが、何とかギリギリのラインで対応できたが、事前に理解や準備を進めておくべき事が抽出できた。」とのご意見を頂きました。

今後は振り返りで出された意見や訓練アンケートを踏まえ、事務局機関協議や検討会でタイムラインの改善を議論する予定です。

連絡・閉会

事務局からメーリングリストの修正等に関する連絡のほか、これからの本格的な台風シーズンに向けて連携と対応を依頼し、第12回検討会は閉会となりました。